

## 令和7年度学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	45	学校名	県立土浦第一高等学校				課程	定時制			学校長名	プランク ヨゲンドラ				
副校長名	日向 久				教頭名			町田 徳雄			事務(室)長名		諸岡 重彰			
教職員数	教諭	7	養護教諭	1	常勤講師	0	非常勤講師	2	実習教諭 実習講師 実習助手	0	事務職員	5	技術職員等	6	計	25
生徒数	小学科		1学年		2学年		3学年		4学年		合計		合計クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		14	20	15	18	11	8	9	8	49	54	4			

## 2 目指す学校像

項目	詳細
生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のことを理解し、人格形成を図り、自主的に多方面の知識と体験に触れ、物事について構造的に考え表現できるような成長を目指す。</li> <li>自己肯定感を持って主体的に行動し、思いやりを持って協働し、多様性を認めた国際的視野を養うことを目指す。</li> <li>自らの将来像を明確に意識し、より高い進路実現を目指す。</li> </ul>
教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら仕事の効率化を図り、心の余裕を持って業務内容の改善を行うことで、WLBの向上を目指す。</li> <li>常にリスキングを行うことで、自身の成長から自己肯定感を強めて、得られた知識を同僚及び生徒に還元し、全ての生徒の進路希望が実現することを目指す。</li> </ul>
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>整理整頓が行き届き、生徒が積極的に学べる場所、楽しく、安心して、やるべきことに集中できる場所を目指す。</li> <li>プロセス、ガバナンス、コンプライアンス、危機管理、いじめ対応などについて徹底的な管理を目指す。</li> <li>保護者、同窓生、地域、国内外の教育機関などとの連携を強化し、より良い教育基盤の構築を目指す。</li> </ul>

## 3 三つの方針(スクールポリシー)

ポリシー	詳細
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>志及び好奇心があって、何事にも興味関心を持ち、自ら考え、行動できる生徒。</li> <li>自己分析、自己管理、時間の管理、健康管理について常に意識する生徒。</li> <li>自己の適性について考えることができ、その能力を存分に生かしたいと考える生徒。</li> </ul>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>創意工夫を生かした質の高い授業及び考查を実施し、主体的な学習態度を育成する。</li> <li>特別活動や学校行事を推進し、自主、協働、感謝の精神を育成する。</li> <li>主体的に行動しながらも、協働の価値を理解し、多様な考え方を受け入れる国際的視野を育成する。</li> <li>自己管理、時間の管理、健康・食事・睡眠の管理について定期的に啓発し、常に高い意識を持って生活できるように支援する。</li> <li>キャリア教育、探究教育、多言語教育、グローバル教育などを含めた総合的教育のさらなる深化を図る。</li> </ul>

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らを分析・理解し、高い目標を持ち、妥協のない進路が選択できること。</li> <li>・人格形成を通じて、自己肯定感を持ち、あらゆる場面でスマートに対応できること。</li> <li>・本校を卒業して広い世界に出た時に自分に自信を持てるようにすること。</li> <li>・土ネットワークを最大限に活用し、様々なことに挑戦できること。</li> </ul>
---------------------------------------	---

#### 4 現状分析と課題(数量的な分析を含む)

項目	現状分析	課題
学習指導	多様な生徒が在籍しており、学力や学習意欲に差が見られるため、学力や意欲向上のためのきめ細やかなサポート体制が大切である。	社会人として必要な知識をいかに修得させ、自ら学ぼうとする様々な取り組みを、ICT等の活用も含め、工夫していく必要がある。
進路指導	進路希望は多岐に渡っており、生徒自身の将来の希望をかなえるため、職業を考える取り組みを大切にしている。	自分の適性を知り、職業を知り、進路目標を持つ。学年ごとに段階的な指導をしていくことで、将来の進路を考える機会をより多く提供する必要がある。学習内容、行事などの実践的な意味を理解し、自己肯定感や達成感を持てるようにする。
生徒指導	笑顔で登校している生徒が多く、安全・安心に学校生活を送っている生徒もいる一方、欠席や遅刻が増えたり、頭髪やスマホの使用法について指導をする機会が増えている。	成人年齢が18歳に下げられ、これまで以上に高校段階で知っておかなければならないことが増えている。HRや授業、集会等での丁寧な指導がより大切になっている。
特別活動	運動部及び文化部が月・水・金の週3日、放課後に活動している。集団活動を通して得られた達成感・自己肯定感、何事にもかえがたい貴重な財産となっている。	個々のコミュニケーション力を育むとともに、生徒に活躍の場を多く与えることが必要である。
働き方改革	資料等のペーパーレス化、授業や校務の効率化を更に推進することができる。 業務分担の適正化等、WLBを更に推進することができる。 時間外在校等時間における月平均時間9時間31分(昨年比-4時間32分)、月平均45時間超過者割合0.0%、月平均80時間超過者割合0.0%。	AL型教授法の強化など授業改善の工夫が必要である。考査、採点の在り方における工夫が必要である。 時間外在校等時間については全校でも最短レベルであるが、さらなる削減に向けて業務の効率化を進める必要がある。

#### 5 中期的目標

項目	詳細
生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己分析、進路意識の育成:個人面談、キャリアガイダンスをより充実させ、生徒一人ひとりの高いレベルでの自己実現に向けて進路指導を推進する。</li> <li>・自ら学ぶ意欲の喚起:学力向上に資する特色ある教育課程を編成し、思考力・判断力・表現力等を育むために、より効果的な教科指導を実施する。</li> <li>・健全な心身の育成:専門家による講演会、特別活動を充実させ、部活動・学校行事等を通して、自主自立の精神を培い、豊かな人間性を育む。</li> <li>・教育相談の充実:生徒の心情への理解を深め、より適切な指導・助言のあり方を探る。</li> <li>・主体的に行動出来る生徒の育成:探究活動を展開し、地域で活躍できる生徒の育成を目指す。</li> </ul>
教職員・学校組織	・周辺の変化を意識:周辺の変わるスピードが速く、自らの作業工程を分析し、常日頃の改善を工夫する。

項目	詳細
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革の推進:教員の心身の健康維持とWLBの向上に努めると共に、時間的・精神的に余裕のある教育活動を展開できるよう努める。</li> <li>・ベストプラクティスの共有:教員・学年・教科間でベストプラクティスを共有し、互いに成長を促し、学校全体の成長を目指す。</li> <li>・失敗を恐れない精神:全てのことに積極性をもって楽しく取り組む。失敗から学び、次に活かす。まずは、考えてみる、やってみるという精神を構える。</li> <li>・生徒ファーストの推進:生徒の目線に立った指導を心がけ、何事においても生徒のメリット・利便性、教員のWLBを優先して進める。</li> </ul>
学校全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼関係の育成:教師と生徒の信頼関係を深め、心の居場所が確保出来る学年・ホームルームを運営する。</li> <li>・ICT活用の推進:授業改善を果たすと共に、生徒や教職員の情報活用への興味・関心を高める。タブレット等を駆使した教授法の研究や展開に努める。</li> <li>・中高一貫校の推進:高校と附属中学校が連携・協力し、互いの良さを学校の活力につなげ、生徒の一貫した育成につなげていく。</li> <li>・本校魅力の発信:入学希望者を増やすために、学校のHP・通信等を更に充実させ、本校情報を積極的に配信し、地域との連携を強化する。</li> <li>・プロセス、ガバナンス、危機管理、いじめ対応などについて徹底的な管理を目指す。</li> </ul>

## 6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
主に生徒に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 基礎学力と応用力の向上:各教科の基礎知識を自主的にしっかりと身につけると同時に、論理的思考力・想像力・分析力・判断力・表現力・課題解決力といった応用的な力も高め、大学受験や将来の進路選択に備える。</li> <li>② 自主的・協働的な学びの実践:授業内外で自ら課題を見つけ、調べ、考察し、発表する探究型学習を積極的に行い、グループワークやディスカッションなどを通して協働的な姿勢を養う。また、部活動や文化祭・体育祭といった学校行事に取り組むことで、仲間との絆を深め、責任感やリーダーシップを育てる。各教育活動においてしっかりした目標管理とスケジュール管理を行うことで充実度や満足度を高める。</li> <li>③ 人格の形成と社会性の育成:礼儀、思いやり、ルール遵守、自律的な行動、ストレスマネジメントやタイムマネジメントなど、人としての基本的な態度を身につけ、将来の社会生活に必要な人間力を高める。また、いじめを許さない心や、他者を思いやる心を育成するとともに、豊かな人間関係づくりを支援する。</li> <li>④ 進路実現に向けた主体的な準備:上記全てを網羅しつつ、自己分析と自己理解を通じて自分の興味・関心を深めながら、職業体験や進路ガイダンス、キャリアパスポートの活用、探究活動などを通して、自らの将来像を描き、進路実現に向けた目標を設定して努力する。</li> </ul>
主に教職員に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤ 主体的・対話的で深い学びの実現:生徒の主体性を引き出す授業を設計・実践し、アクティブラーニングや協働学習を積極的に取り入れて、思考力・判断力・表現力を育成する。深い学びの場を提供することで、生徒による授業満足度3.5以上を目指す。</li> <li>⑥ 生徒理解と教育的支援の深化:生徒一人ひとりの個性・発達段階・家庭環境等を的確に理解し、学習面・生活面・進路面でのきめ細やかな支援を行うとともに、関係機関との連携も図る。キャリアパスポートの活用によるキャリア教育、進路支援を通して進路実現を支援する。</li> <li>⑦ 継続的な授業改善と研鑽の推進:「導入～授業～確認」を基本とした授業の流れを確立する。授業評価や研究授業、同僚との協働による授業研究などを通して、自らの授業力を絶えず見直し、向上させる姿勢を持つ。</li> <li>⑧ ICTを活用した教育の充実:ICT 機器やデジタル教材を効果的に活用し、学習の個別最適化や協働的な学びを実現す</li> </ul>

重点項目	重点目標
	<p>るとともに、生徒の情報活用能力の育成に努める。自らや職場のICTリテラシーを高め、作業効率の向上に努める。</p> <p>⑨ セルフマネジメントとコンプライアンスの確保：健康管理、身だしなみの管理、リスクリング、時間管理やWLBの向上に努め、教職員として持続的にパフォーマンスを発揮できるよう心身のバランスを保つ。教育者としての職責と公共性を自覚し、法令遵守・個人情報保護・ハラスメント防止などに留意した誠実な行動を実践する。</p>
主に学校に関すること	<p>⑩ 学校ビジョンの明確化と共有：学校の方向性を明示し、生徒ファーストの精神を持って、生徒・教職員・保護者が一体となって目標に向かう風土をつくる。6か年（全日制中高）進路支援計画を構築し、オールラウンド教育、リーダーシップ育成を目指す。</p> <p>⑪ 生徒の多様な学びを支える教育環境の整備：明るくて清潔な教室、ICT 機器や施設・設備の充実、安心・安全な学習環境づくりを進め、生徒一人ひとりが主体的に学びに向かえる空間を整備する。また、インクルーシブ教育や心のケアにも配慮した支援体制を構築する。</p> <p>⑫ 教育活動の質的向上と学力・人間力の育成：授業改善、探究活動、国際理解教育、部活動などを通じて、生徒の学力・思考力・表現力だけでなく、主体性や協働性、豊かな人間性を育成する教育活動の充実を図る。</p> <p>⑬ 教職員の専門性向上と働きやすい職場づくり：教職員一人ひとりの資質・能力の向上を支援する体制を整えるとともに、業務の効率化・分担による働き方改革を推進し、教職員が安心して教育活動に取り組める環境をつくる。学校全体として法令順守に努める。</p> <p>⑭ 地域との連携・情報発信による信頼と共創の学校づくり：保護者・地域・企業・大学などとの連携・協働を深め、地域に開かれた学校としての役割を果たす。また、教育活動や成果について積極的に情報発信し、学校への理解と信頼を高める。</p>